



# 白市歌舞伎

- SHIRAICHI KABUKI -





## 今年は魅せます！白市歌舞伎！

令和元年（2019年）に一度復活した白市歌舞伎ですが、今回3年ぶりに開催いたします。

（白市歌舞伎が誕生するまで）

白市は、平安時代末期から門前町、城下町、商人町として栄えた。  
明治以降も牛馬市が、昭和35年まで立ち、歌舞伎や旅役者の一座が巡業公演していた。

白市歌舞伎は江戸時代中期に始まった牛馬市と盛衰をともにした。  
広島藩が許可した歌舞伎公演は、白市、三次、宮島の3カ所だけであった。  
白市では、『長栄座』と言う劇場で上演された。最初は小さな小屋だけで、観客は外で見ていたという長栄座は、しだいに花道や回り舞台も設置され、500人も入る大劇場に育っていったという。（福村氏談）

長栄座は、白市地区の共有財産で、日本でも有数の一座が来て公演をしていた。  
しかし、白市の住民たちの「芝居を見る目」は越えていて、中途半端な芝居をするような一座は、白市では上演できない、とまで言われていたのである。

また、その頃から白市の青年団は婦人会のメンバーとともに、地区の祭りなどでは、歌舞伎や芝居を上演した。当時は芸者の置き屋が2~3カ所もあり、三味線や結髪の出来る人が大勢いたため、素人歌舞伎、素人芝居のスタッフにも事欠かなかったというわけである。（桧山氏談）



牛馬市の様子



長栄座



白市の街並み

昭和 35 年に牛馬市が幕を閉じると、長栄座は映画館に変わり、テレビ普及の波の中で閉館し、50 年には建物も取り壊された。

しかし、住民の心の中には歌舞伎が生きつづけ、昭和 47 年の小学校百年祭をはじめ、54 年、59 年・・・と地域の行事のたびに住民らによって「白市歌舞伎」が上演されていた。

#### (文化を考える会発足)

平成 5 年 (1993 年) 途絶えた伝統を復活させようと、「白市の文化を考える会」が発足した。忘れ去られようとしている「ふるさとの歴史・伝統・文化」を見直そう!というねらいを掲げている。主に取り組んでいたのは、昭和 50 年まであった長栄座で上演していた歌舞伎や芝居の復活であった。高屋東小学校で行われている 8 月最終週の夕涼み会で『大人歌舞伎』、『子供歌舞伎』が上演され、地域の大人、子供が日々練習を重ね本番に挑んでいた。その白市歌舞伎も本番で裏方として使用していた高屋東地域センターが平成 27 年 (2015 年) に改修されるのを機にストップした。

#### (白市歌舞伎実行委員会発足)

令和元年 (2019 年) 新しい年を迎えたこの年、様々な方たちからの復活を要望する声に、4 年ぶりに白市歌舞伎を開催しようと、白市歌舞伎実行委員会が発足され、その年の 11 月に『大人歌舞伎』『子供歌舞伎』が上演された。その模様はテレビ、新聞で取り上げられ大いににぎわいました。しかし 2020 年以降はコロナ渦のため開催できず、今回 3 年ぶりに開催へとこぎつけた。

#### (大人歌舞伎)

地域の子供～大人、小学校の先生、かつて子供歌舞伎に出演した方々が演者となり、7 月から稽古に入り、毎週土曜日の夕方に集まり、本番に向け日々頑張っている。

演目は『竹夜叉怨みの戻り橋』 総勢 10 名出演

#### (子ども歌舞伎)

高屋東小学校、板城小学校の 2～5 年生が扮する。発声や動きの基礎練習をひとつおやりした後、台本をもらってセリフの暗記。日常使わない言葉ばかりなので理解が難しいのだが、子どもたちは難なく覚えていく。稽古は毎週日曜に保護者も一緒に集まり、本番に向け頑張っている。

演目は『白波五人怨みの戻り橋』 総勢 10 名出演